

第3回「情報通信技術を活用した公共交通活性化に関する調査」
検討委員会議事概要

【日 時】平成27年3月6日（金）13:30～15:30

【場 所】中央合同庁舎3号館4階 特別会議室

【議事概要】石田座長（筑波大学大学院教授）の進行のもと、以下のとおり、議事が進められた。

1. ケーススタディの結果報告
2. 報告書骨子（案）

ケーススタディについては、分析・評価方法の基本設計の有効性を検証するため、つくば市域と福島県域の実際のデータを用いた分析・評価結果の報告を行い、それらを踏まえ、今年度の調査のとりまとめの方向性について検討した。

報告書骨子（案）については、骨子（案）のとおり報告書を作成し、あらためて委員・専門委員から意見をいただき、報告書を取りまとめることとなった。

検討委員会で出された主な意見は以下のとおり。

- 携帯基地局情報を基にした人口推計統計（以下「人口推計統計」）を用いた分析結果は、大変興味深いものである。一方、メッシュによって人数の少ないケースの識別には限界があるという調査結果がでている。今後は、個人情報の扱いに配慮しながら、どのように有効性を高めていけるのかということが焦点になると思う。
- つくば市では、自動車が最大の競合相手である。車との競合に関しては、車利用に便利な駐車場がどれくらいあるのかなどのいろいろな要素があるが、「バスの頻度がどの程度であれば、住民の不満足合いが低くなって、車と競合できるようになるのか」といった閾値が調査結果からわかるのかどうかということの問題意識として持った方が良いのではないか。
- 観光の際に、町中で買い物をするというような周遊のパターンをビッグデータから把握することはできないだろうか。
- 多くのデータを用いてビッグデータの解析を行ってきているが、SNSをうまく使えば、需要が少ないケースでのマーケティングに活用できるのではないか。
- 人口推計統計では、人数が少ないケースの識別ができないといったことよりもむしろ、「これらのデータによって、結果的にどのようなことができるのか」を見いだしていくことが大事なのではないか。一定のレベルの政策立案を検討する際には、データの精度

自体は、さほど問題にはならないと思う。個人のプライバシーが明らかになることが問題である。

- プライバシーの保護が大前提であるが、移動の軌跡といった線的なデータを束にしていくと、みえてくるものもある。定性的なデータであっても、多様なデータを重ね合わせていくとみえてくるものもあるので、できるだけいろいろなデータを重ね合わせていくという視点を持ち続けていくことが大切。
- 人口推計統計のデータについては、深夜の時点でみて、居住人口と滞在人口の分布にバラツキがみられるので、どれくらいの精度で活用できるのかを詰めていく必要があると思う。これがわかってくると、年代別の動きも含めて、人の移動をある程度推計するのにとてもよい方法と思う。
- 路線バスをもっと知ってもらおうとか、バスに対する認識を深めてもらうとか、地域との間でコミュニケーションをもっていくことが重要。このためには、「データ分析」と「地域との間で意識を高めていく取組み」と、両方を一緒に進めていくことが大切。
- 観光ルートの開発ということでは、データに頼るのは難しい面があると思う。トライ・アンド・エラーで観光商品を続けて出し、マーケットの反応を見る方がニーズも見えてくると感じている。
- 今回のケーススタディの結果は、素晴らしいと思う。このように分析結果が「見える化」できると、自治会にもっていきとか、何がバス利用の条件として大事かとか、きめ細かなマーケティングができて、需要の掘り起こしに寄与していくと思う。
- 今後の全国展開について、自治体がこうしたデータをハンドリングしていくにはどうしたらよいか、また、その場合のコスト面の手当てをどのようにしたらよいか、国としても何か考えてもらえるとういと思う。
- 今回のケーススタディでは、人口統計等は、ある1日のデータを扱ったが、1年間の平均でみるとか、分析の工夫をしてみてもどうか。傾向の変化をみるのが大事なので、データを経年的にみられるようにしていくことも検討してほしい。
- 人口推計統計は、安全に提供できるように工夫をして仕様を決めたものであり、統計的には有意な傾向がみられるデータである。使い方次第であり、これから具体的に何をやるのかということを考えていくべきである。
- ケーススタディについては、現場からの使い勝手とか評価をきちんと把握するとともに、ケーススタディでわかったことを、どう具体的施策に結びつけていくのか、トピックス的でもよいので、報告書に盛り込んでほしい。

(以 上)